

実践報告 札幌市立札幌中学校

本事業においてめざす生徒の姿は、「男女が互いに自他を尊重しながら、豊かな学校を創造していく姿」である。本校では、中等教育における教育課程から男女平等教育に関連する内容を明らかにし、生徒が横断的、系統的に学習をすすめていくことで生徒一人一人の人権感覚を磨いていくことを目指し、実践研究を推進した。



(1) 研究内容

研究課題：「男女が互いに自他を尊重しながら、豊かな学校を創造していく姿をめざして」

- これまでの歴史や現在の状況からみた男女の社会的役割について理解を深める。(知識的側面)
- 男女の社会的役割について関心をもち、自他を尊重する態度を身に付ける。(価値的・態度的側面)
- 他者と協力しながら活動し、自分たちの理想とする学校を創造することができる。(技能的側面)

(2) 実践の内容

【① ピア・シートの作成】

研究課題に迫るためには、人権感覚を磨く 3 つの側面(知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面)を生徒が各教科の学習場面においてバランスよく育んでいくことが重要であると考えた。そこで、札幌市教育委員会から提示されている「中学校における男女平等教育の指導」を参考に、各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動の時間において、特に男女平等教育に関わりが深い内容を学年ごとにまとめた[表 1]。さらに、その学習内容を学年ごとに 1 枚のシート(ピア・シートと命名)[図 1]にまとめることで、生徒にとってこれまでの学習内容が定着するとともに、男女平等という視点でつながっているという意識をもたせることができると考え、ピア・シートを作成した。そして、全ての学習を終えた後、3 年間のピア・シートを振り返り、「男女平等な社会を創っていくために自分(自分たち)ができること」を考え、これからの生活において主体的に男女平等参画社会を構築してこうとする姿を目指し、実践を進めることとした。

[表 1 中学校教育課程の男女平等教育に関連する内容]

教科	学年	学習内容
社会科[地理的分野]	第 2 学年	・ストリートチルドレンの現状と今後の世界の在り方 ～自分にできること～
社会科[公民的分野]	第 3 学年	・個人と社会生活 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会・現代の民主政治 ・市場経済
保健体育科	第 1 学年	・心身の機能の発達と心の健康 ア 身体機能の発達 イ 生殖にかかわる機能の成熟 ウ 精神機能の発達と自己形成 エ 欲求やストレスへの対処と心の健康 ※発達の性差、個人差についても取り扱う
技術・家庭科	第 3 学年	A 家族・家庭と子供の成長 家庭と家族関係
道徳の時間	全学年	2-(4)異性理解 2-(5)自他の尊重 4-(10)国際理解 4-(2)社会連帯 4-(3)公正・公平
総合的な学習の時間	全学年	人間関係形成能力の育成を柱に 3 年間系統性をもたせながら実施
特別活動の時間	全学年	(2)適応と成長及び健康安全 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重 エ 男女相互の理解と協力 ク 性的な発達への適応 (3)学業と進路 エ 望ましい勤労観・職業観の形成 オ 主体的な進路の選択と将来設計

[図 1 第 3 学年 ピア・シート]

教科	キーワード	学習を終えて考えたこと
社会科 [公民的分野]		
技術・家庭科 [家庭分野]		
道徳の時間		
特別活動の時間		

【② ピア・シートの実践】

学年ごとに 1 枚のピア・シートを用意し、関係する各教科の題材を終えた際に、振り返りとともに記入させた。生徒は男女平等という視点でまとめ(振り返り)を行うことで、学習した内容をしっかりと自己に価値付けし、理解が深まっていた[生徒ワークシート①]。また、学年ごとに 1 年間を振り返ってのまとめもさせた。内容は、「男女平等な社会

を創っていくために自分(自分たち)ができること」である。当然ながら、学年が上がるにつれて生徒の記述内容は深みが増し、男女が平等な社会に向けて、実現可能な視点で具体的に考えることができるようになっていた[生徒ワークシート②③]。

第3学年 ピア・シート

教科	キーワード	学習を終えての自分の考え
社会科 【公民的分野】	男女共同参画社会 基本法 男女雇用機会 均等法	男女関係無しの働き方、性別で困ったりする でいい。今の世の中はともかく男と女 と男女差別を止めるように働き かけてくれた方々に感謝しています。 それでもまだ差別がある。地球だいたい職場 が自分の意見が通らない場所が多いです。
技術・家庭科 【家庭分野】	家族の役割	性別によって役割を決めるのは少し違 うと思います。男の仕事をするのは大 変だけど男の人に任せきれないのはダメ な事だと思ったり、男に任せてもままだ と人がいるのだから、その人にある役 割をしっかりとすることが大切だと思います。

[生徒ワークシート①]

『男女平等な社会を創っていくために自分(自分たち)ができること』

男女によって役割を決める"男女共に話し合いをしてから
役割を決めること。

男の人だからこうあるべき、だから女の人だからこうあるべき、
などの偏見を捨てること。

[生徒ワークシート②]

男女差別がない社会をつくることは、すべてのことに対してメリットが
多いと思う。人とのつながりも良くなっていいと思います。

男は～だから～しなくてはならない。とか女だから～あるとか。

そういう風に決めつけるのではなく、自分から行動することが大切だと思
う。男の人、女の人それぞれが暮らしが楽しくて平等な社会に、もっとた
まわってほしいと思いました。

[生徒ワークシート③]

生徒ワークシート①では、題材を終えた生徒が男女平等に関してキーワードをあげ、学習を終えての自分の考えをまとめていく。このシートが3年間分集まることで、男女平等教育を統合・深化させていくのである。また、生徒ワークシート②③からは、お互い(男女)を理解し、尊重するだけではなく、全ての人々に対してもよりよい人間関係を築いていくことが大切であるという視点へと生徒の視野が広がっていったことがうかがえる。それぞれ今後男女が平等である社会を創っていきたいという意欲が見取れる内容となっている。

【③ 授業実践 技術・家庭科[家庭分野] A 家族・家庭と子供の成長 第3学年】

第3学年家庭分野において、家庭生活における役割(家事)についての授業を行った。生徒をはじめ、家事は母親がほとんどを担うことが当たり前だと思っていた。しかし、意見を交流する中で男女のイメージは勝手に自分たちが思い込んでいるだけで、実際は男女どちらにも当てはまるものであるということに気付いていった。また、社会的・文化的に創りだされた性差(ジェンダー)について身の回りの事象から確認していくことで、家庭内でも男女によって役割が分業されるべきではないという考えに変容していった。さらに、家族一人一人のことを尊重し、お互いが助け合いながら家庭生活を送っていくことが大切であるという考えを導き出すことができていた。最後に、これから家族のために自分ができることを各自で考え授業を終えた。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 男女それぞれが理解・尊重し合いながら活躍できる社会(学校)を創るために自分たちができることを考えることができたようになった。また、異性に限らず、高齢者や幼児、周りにいる仲間を尊重し、共に生活していこうとする生徒が増えたことも成果である。
- ピア・シートを作成し、実践したことで、生徒が男女平等教育に関する知識や技能を整理し、これから自分たちができることを考えることができた。また、教師も教科ごとの関連が明確になり、教科を横断した男女平等教育への展望をもつことができた。

② 課題

- 各教科における男女平等教育に関する内容の精査と吟味。今後の可能性としては以下の内容が挙げられる。
※保健体育科：男女共修 技術・家庭科：製作や実習における男女共同(協同)学習
各教科：協同学習 生徒会活動：男女平等教育に視点をあてた全校規模の活動 など
- ピア・シートの継続。今年度限りの取組にせず、今後も継続することで現在の1年生の変容を見取ることが可能となる。

③ 提言「人権教育のすすめ」 『札苗中学校がすすめる男女平等教育』

- 多くの新たな実践をするのではなく、これまで実践してきた男女平等教育を整理する。きっとたくさんの男女平等教育が見つかるはず。また、教員も男女平等な学校(職場環境)を創っていくことが大切である。そして、自分らしさを発揮できる理想の職場環境を創っていく。教師が変われば生徒も変わり、学校も変わっていく。